第２号

ＣＳだより はいちゅう

令和３年３月発行

コミュニティ・スクールの仕組み

◇ 学校運営協議会と同制度について　（中教審より）

コミュニティ・スクールの仕組みとしての学校運営協議会は、校長の作成する学校運営に関する基本的な方針の承認を通じ、校長のビジョンを共有し賛同するとともに、地域が学校と一定の責任感・責任意識を分かち合い、共に行動する体制を構築するもである。すなわち、学校と地域がビジョンや課題を、情報等を共有し、熟議し、意志を形成する場であり、学校と地域が相互に連携・協働していくための基盤となる会である。

学校運営協議会制度は学校運営の最終責任者である校長を支え、学校を応援することで、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを推進するという役割を明確化していく制度である。

榛原中の運営協議会委員が決定しました

＊ 学校の応援団、学校のニーズに応えるため、地域の代表・専門的な分野の方にお願いしました。

◇ 学校運営協議会委員名

（敬称略）

1	神　谷　好　一	仁　田	元川崎区長･前友仁会会長
2	須　藤　孝　夫	坂　部	元学校評議員
3	大　石　弘　子	静　波	元福祉こども部長
4	杉　山　広　美	静　波	看護師･整理収納ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
5	山　﨑　　泰	細　江	元学校評議員
6	榎　田　哲　也	勝　俣	ｴﾉﾃｯｸ副社長･ﾊｲﾅﾝJC副理事長
7	大　石　寛　之	坂　部	PTA代表･PTA副会長
8	大　石　友　巳	仁　田	校長
9	伊故海　芳　則	坂　部	CSﾃﾞｨﾚｸﾀｰ

任　期　　令和３年４月１日～令和４年３月３１日

（次号で顔写真入りの自己紹介を掲載します）

先進校の視察を終えて　（CSDの私見）

　地方（牧之原市）の学校では、以前から地域との協力、連携は得られているのでコミュニティ・スクールの導入は必要がないと思っていた。今回市内小中学校（指定）の先進校を視察してみて、改めてコミュニティ・スクールの有用性を感じた。
　特に小学校では体験的な学習場面において、地域の方が上手に関わって、子どもたちの主体的な学びの姿や、さらには学びが深まっていく様子が見て取れた。地域の方も子どもたちの成長していく姿に喜びを感じ、学校に関わることを楽しみにしている。正に「地域と共にある学校」に近づいていると感じた。
　榛原中の目指すコミュニティ・スクールは小学校のような連携は難しい。中学でのニーズは少し違うように思う。隙間もない教育課程の中に入り込む余地はなく、教科や領域においては、科学的な根拠や裏付けなど、理論的・専門性が要求されるからではないか！
　学校・教職員のニーズなきところに連携はないと考える。主体は学校であり、ねらいをはっきり定めた連携でなくては、教職員の多忙化がさらに進む心配がある。

地域連携の実際　（試行例）

草刈り前

南側から

草刈り後

　グラウンド東側、ソフトボール場･テニスコートのフェンス越え（仁田川沿い）100m位にわたり小道が続いています。昨年の夏に仁田友仁会の皆様と職員で除草作業を行いましたが、ところどころ草が雑木になるまで大きくなり、草刈りに大変手間取りました。また、斜面のため滑りやすく危険も伴いました。
　そこで、冬の枯れ草の間に草刈りをしておけば、おおい茂った夏場の状態より楽に草刈りができるため、天気のよい日にCSDが除草作業を行いました。

坂部口のさざんかの枝きり

河津桜と榛原中